

教育民生常任委員会

9月13・14・15日の3日間、
決算議案8件の審査と所管の事務調査、
2カ所の現地調査を行いました。



保育環境の充実 幼児教育課

今

年度から病児保育が始まった。

また、安心子ども基金で各保育所の備品も充実したが、さらに保育の質を高めるよう進言した。

2階部分の検討 保健課

大

山診療所は、借り入れの返済が始まり赤字となっている。2階部分は、民間への賃貸が検討されている。各診療所には、経営努力を求めた。

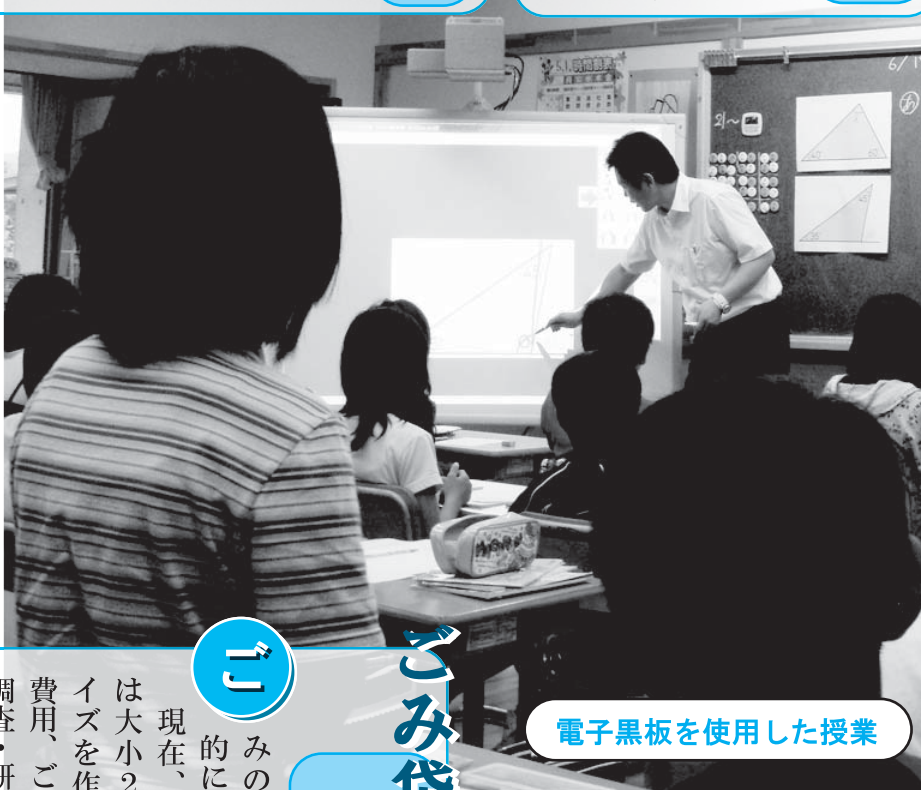
また、休日ガン検診が実施されたが、さらなる受診率向上に努力を求めた。

学習環境を整備 学校教育課

子

ども読書のまちづくりとして、他の町村にはないブックサード事業を、次年度就学予定の児童に行った。

また、*ICT事業の一環として、電子黒板が導入されたので、今後の有効な活用を求めた。



電子黒板を使用した授業

ブックサード

読書力向上のための施策。ブックスタート（6カ月）ブックセカンド（3歳）に続き、次年度就学する児童には幼年童話の本が配られる。

ICT

インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジーの略。情報通信技術。以前に使われていた「IT」とほぼ同様の意味。「日経パソコン」の公立学校情報化ランキングでは、本町の小学校が全国1位に選ばれた。

ごみ袋のサイズ 住民生活課

ご

みの量は21年度も全体的に減っている。

現在、可燃物用のごみ袋は大小2種類ある。中間サイズを作った場合の需要や費用、ごみの削減効果などを、調査・研究するよう提案した。

大山町内の可燃ごみ排出量

平成20年度は1年間で約3238トン。
平成21年度は1年間で約3161トン。
排出量の減少は人口減少が大きな要因とみられる。